

阿南市新水道ビジョン 2022▶2028

～市民とともに未来へつなぐあなんの水道～



令和4年3月 策定

 阿南市水道部

も く じ

<u>第 1 章 阿南市新水道ビジョン 2022▶2028 策定にあたって</u>	1
<u>第 2 章 阿南市水道事業の概要</u>	1
<u>第 3 章 現状の分析</u>	2
<u>第 4 章 基本理念と現状の課題</u>	2
<u>第 5 章 施策目標と実現方策の立案</u>	4
<u>第 6 章 フォローアップ</u>	5

概要版

阿南市新水道ビジョン 2022▶2028

～市民とともに未来へつなぐあなんの水道～

第1章 阿南市新水道ビジョン 2022▶2028 策定にあたって

1.1 新水道ビジョンの趣旨と見直しの背景

本市では、平成25年に厚生労働省から「新水道ビジョン」が策定・公表されたことにより、今後の本市水道事業が目指すべき姿や具体的な施策を示す水道事業ビジョンとして、平成28年3月に「阿南市新水道ビジョン」(以下「前計画」という。)を策定しました。

本市水道事業は、前計画に定めた施策に対し具体的な取り組みを推進しているところですが、平成30年12月に成立した水道法の一部を改正する法律では、広域連携、適切な資産管理、官民連携の推進等、水道事業の基盤強化が求められるなど水道事業を取り巻く環境は刻々と変化しております。

このような状況の中、前計画では、フォローアップとして阿南市水道事業審議会を5年に1度程度開催し、当初計画や事業推進に伴う問題点、事業の効果等について明確に検証を行うこととしていることから、本市水道事業の現状を改めて整理するとともに、継続的に対応すべき課題と新たな課題を抽出し、さらに審議会の意向や社会情勢の変化等を踏まえ、施策目標や実現方策の見直しの必要性を検討した上で前計画を抜本的に見直し、後期計画として「阿南市新水道ビジョン 2022▶2028～市民とともに未来へつなぐあなんの水道～」(以下「本計画」という。)を策定しました。

1.2 位置づけ

本計画は、市政運営における最上位計画である『阿南市総合計画 2021▶2028～咲かせよう夢・未来計画 2028～』(以下「総合計画」という。)や「新水道ビジョン」(厚生労働省策定・公表)などの内容と整合を図りながらそれらの方針に沿って精査・検討して策定しており、本市水道事業の目指すべき将来像に向けた基本計画と位置づけます。

1.3 計画期間と目標年次

令和4年度から令和10年度までとする7年間の計画期間とします。

第2章 阿南市水道事業の概要

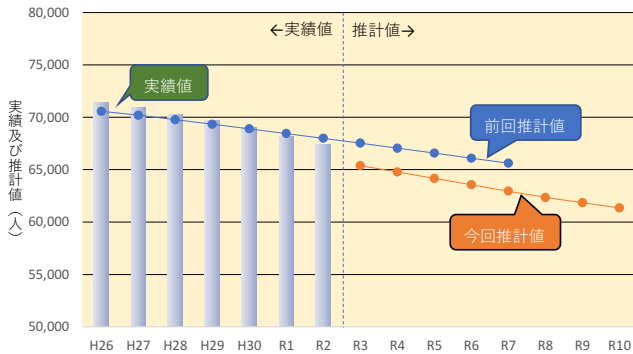
本市の水道事業は昭和38年、富岡町上水道を主体とする上水道2か所、簡易水道6か所を統合して、計画給水人口100,000人、計画一日最大給水量40,000m³/日をもって、経営認可を得て創設されました。その後、1市2町による市町村合併を経て、計画給水人口77,000人、計画一日最大給水量46,312m³/日をもって、現在に至ります。また、上水道以外に市営の簡易水道及び地元管理・運営による簡易水道等があります。

なお、本市の水道事業には18か所の水源地(1か所休止)があり、水源の種類は、地下水、表流水、伏流水、ダム水及び湧水と多種で、ほとんどの水源は一級河川那賀川水系に位置し、良質な地下水であるため塩素消毒のみの処理により供給しています。

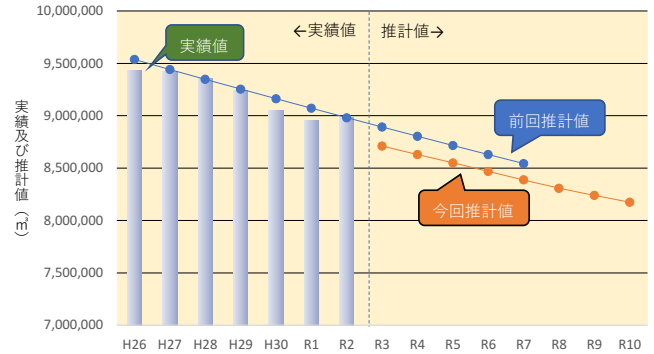
第3章 現状の分析

3.1 水需要の見通し

本市の給水人口は、令和10年度には61,347人、年間有収水量は、約8,173千 m^3 まで減少すると想定しています。



【阿南市給水人口の推移】



【阿南市年間有収水量の推移】

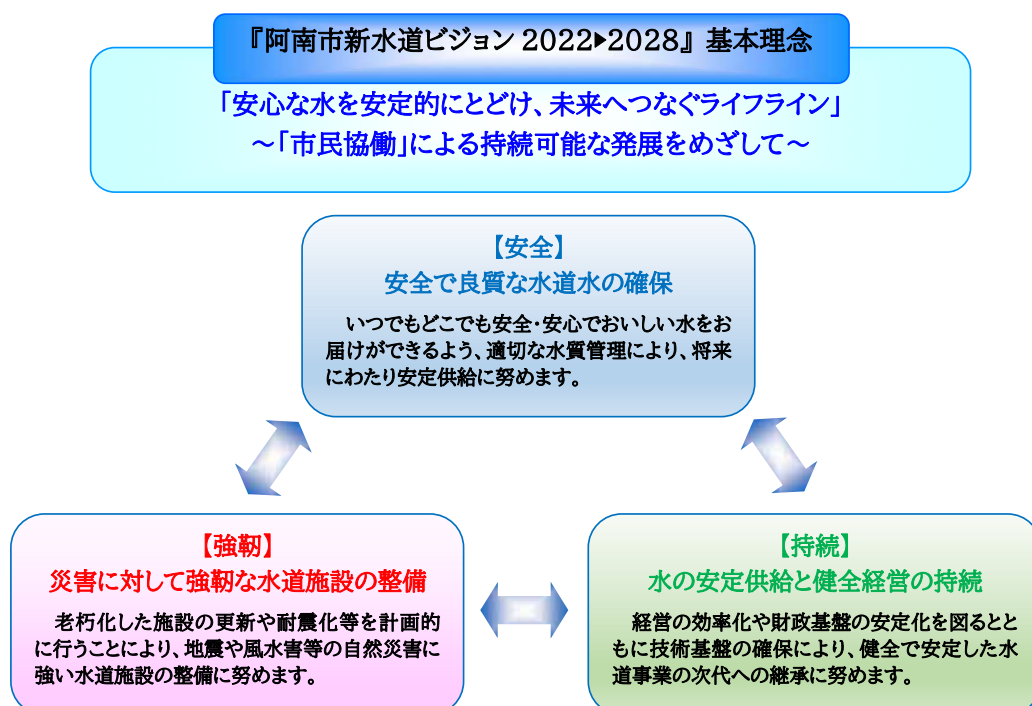
3.2 水道料金と財政状況

水道事業は独立採算制で経営しており、料金収入を主な財源として老朽施設の整備や更新及び耐震化等を行っていますが、現在、既に耐用年数を超過した施設が多く、今後、それら更新費用等は増加することとなりますが、料金収入は減少傾向にあります。

第4章 基本理念と現状の課題

4.1 基本理念

本市水道事業では、目指すべき水道の将来理想像に向けて、以下の基本理念を掲げ、未来につながる水道事業運営に努めます。



4.2 課題のまとめ

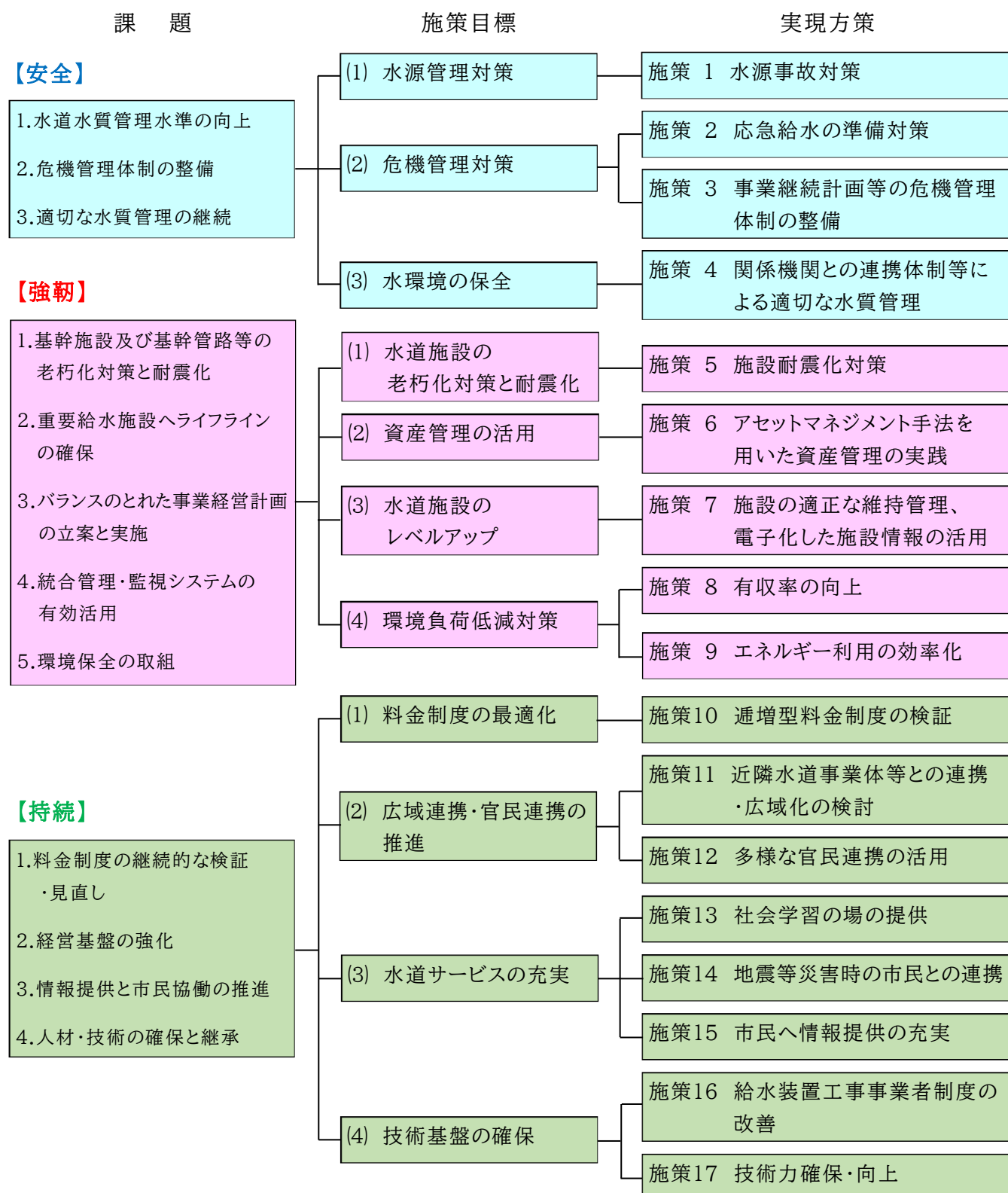
本計画では、改正水道法の施行により水道事業の基盤強化が求められていることや行政区域内人口が前計画での推計値以上に減少すると見込まれるなど、本市水道事業を取り巻く環境は、なお一層厳しさを増すことが予想されていることから、本市水道事業の現状を改めて整理するとともに、抽出した問題点等やそれらに対応する本市の課題を以下のとおりまとめました。

基本方針	業務指標(PI)の分析による問題点等	課 題
【安全】	◇ 業務指標(PI)による総合評価：良好 同規模事業体平均(H30)との比較において、基本的には本市の水道は『安全』な状況にあります。 ○ A101「平均残留塩素濃度」、A102「最大カビ臭物質濃度水質基準比率」は同規模事業体平均並み、あるいは良好な状況です。今後も維持していく必要があります。 ○ 水源の A301「水質事故件数」は0件です。適切な水質管理を継続し、災害等に対する危機管理体制も整備する必要があります。	1. 水道水質管理水準の向上 2. 危機管理体制の整備 3. 適切な水質管理の継続
【強靱】	◇ 業務指標(PI)による総合評価：重点的課題 同規模事業体平均(H30)との比較において、B604「配水池の耐震化率」は“良い傾向”ですが、他の項目は“良くない傾向”です。また、5年間の指標値の傾向においても、“良くない傾向”の項目が多く、本市の水道は『強靱』が重点的な課題です。 ○ B503「法定耐用年数超過管路率」等管路の老朽化を示す指標が悪化しており、基幹管路の老朽化・耐震化対策やライフラインの確保が重要となっています。また、多額の事業費を要する工事が予想されるため、バランスの取れた事業計画の策定が求められます。 ○ 事業計画の策定のためには統合管理・監視システムの活用が有効です。 ○ B302「配水量1m³ 当たり消費エネルギー」等の値が同規模事業体平均より多い状況であり、環境保全等に関する取り組みが必要です。	1. 基幹施設及び基幹管路等の老朽化対策と耐震化 2. 重要給水施設へライフラインの確保 3. バランスのとれた経営戦略の立案と実施 4. 統合管理・監視システムの有効活用 5. 環境保全の取組
【持続】	◇ 業務指標(PI)による総合評価：概ね良好 同規模事業体平均(H30)との比較において、「職員」に関する項目以外は“良い傾向”の項目が多く、本市の水道は概ね『持続』可能な運営状況にあります。 ○ C101「営業収支比率」等経営成績を示す指標は良好ですが、多額の事業費を要する工事が今後見込まれるため、料金制度の検証・見直しや経営基盤の強化が求められます。 ○ 多額の事業費を要する工事や料金制度の見直しを実施するためには市民へ防災や収益・投資の情報を提供していく必要があります。 ○ C204「技術職員率」等、職員の確保と技術の継承に関する指標は同規模事業体平均より低い状況であり、人材・技術の確保と継承に関する対策が必要です。	1. 料金制度の継続的な検証・見直し 2. 経営基盤の強化 3. 情報提供と市民協働の推進 4. 人材・技術の確保と継承

第5章 施策目標と実現方策の立案

5.1 施策目標

本計画に掲げた基本理念の実現に向けて、施策目標を【安全】、【強靱】、【持続】のキーワード別に設定し、その施策目標により具体的な実現方策を計画的に推進していきます。(主な施策内容は、6ページ「6.2 施策目標・成果指標一覧」を参照。)



5.2 SDGs(持続可能な開発目標)への取組

本市では、令和3年度から総合計画の下、地方創生の取り組みを推進していくこととしており、総合計画の各施策分野にSDGsの目指す17のゴールを関連付けることで、SDGsを一体的に推進しています。本計画で掲げる基本理念の実現のための各施策は、SDGsで示されている目標と大変関わりが深く、SDGsのゴールと同じ方向性となっており、SDGsの目指す17のゴールのうち、本計画における施策目標との関連性については、次のとおりとなります。



ゴール 6 安全な水とトイレを世界中に

【安全】

(1) 水源管理対策 (3) 水環境の保全

【強靱】

(1) 水道施設の老朽化対策と耐震化 (2) 資産管理の活用
(3) 水道施設のレベルアップ

【持続】

(1) 料金制度の最適化 (3) 水道サービスの充実
(4) 技術基盤の確保



ゴール 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

【強靱】

(4) 環境負荷低減対策



ゴール 11 住み続けられるまちづくりを

【安全】

(2) 危機管理対策

【強靱】

(1) 水道施設の老朽化対策と耐震化 (2) 資産管理の活用
(3) 水道施設のレベルアップ

【持続】

(3) 水道サービスの充実 (4) 技術基盤の確保



ゴール 17 パートナリシップで目標を達成しよう

【持続】

(2) 広域連携・官民連携の推進 (3) 水道サービスの充実
(4) 技術基盤の確保

第6章 フォローアップ

6.1 進捗管理と見直し

本計画では、3つの基本方針を適正かつ効果的に達成していくために、策定した計画(Plan)に従い、事業を実施(Do)し、目標の達成状況を検証(Check)し、事業の改善の検討(Action)を継続的にを行います。

また、本計画の計画期間中、社会情勢及び水道事業を取り巻く環境の変化が生じたときは、必要な見直しを行うなど、PDCAサイクルの考え方にに基づき、実現方策の有効性などを確認しながら、計画の推進や改善に努めます。



6.2 施策目標・成果指標一覧

1) 【安全】で良質な水道水の確保

施策目標		単位	望ましい 方向	平成 30年度	令和 10年度
No.	業務指標(PI)等				
水源管理対策					
1	阿南市水安全計画の策定	—	—	未了	策定
危機管理対策					
2	富岡配水池へ緊急遮断弁等の整備	—	—	未整備	整備
3	応急給水・応急復旧訓練等の実施	回/年	↑	2	1 以上
水環境の保全					
4	水質基準適合率[(基準値内検体数/水質検査検体数)×100]	%	↑	100	100

2) 災害に対して【強靱】な水道施設の整備

施策目標		単位	望ましい 方向	平成 30年度	令和 10年度
No.	業務指標(PI)等				
水道施設の老朽化対策と耐震化					
5	基幹管路の耐震管率(業務指標No. B606)	%	↑	11.0	35.0
	管路の更新率(業務指標No. B504)	%	↑	0.00	0.64 以上
資産管理の活用					
6	アセットマネジメント「簡易支援ツール」の活用	—	—	策定	更新・活用
水道施設のレベルアップ					
7	各施設データ全てを統合管理・監視システムに反映・運用	—	—	一部反映	全て反映・運用
環境負荷低減対策					
8	有収率(業務指標No. B112)	%	↑	80.7	85.0
9	LED照明等の省電力型へ切り替え	—	—	推進	継続
	配水系統の見直し	—	—	検討	推進

3) 水の安定供給と健全経営の【持続】

施策目標		単位	望ましい 方向	平成 30年度	令和 10年度
No.	業務指標(PI)等				
料金制度の最適化					
10	料金回収率(業務指標No. C113)	%	↑	128.9	100 以上
広域化・官民連携の推進					
11	水道広域連携検討会へ参加・検討	—	—	参加・検討	継続
12	官民連携手法の調査研究・推進	—	—	—	調査研究 ・推進
水道サービスの充実					
13	施設見学実施率〔(見学実施回数/見学希望回数)×100〕	%	↑	100	100
14	防災訓練等の実施	回/年	↑	1	1
15	経営戦略、経営比較分析表、財政状況等の情報提供など	—	—	一部実施	継続・向上
技術基盤の確保					
16	指定基準を遵守した指定給水装置工事事業者の指定更新	—	—	—	全事業者
17	技術職員率(業務指標No. C204)	%	↑	26.1	連携・向上



配水ポンプ(西原水源地)



非常用自家発電装置
(加茂谷水源地)



大野水源地



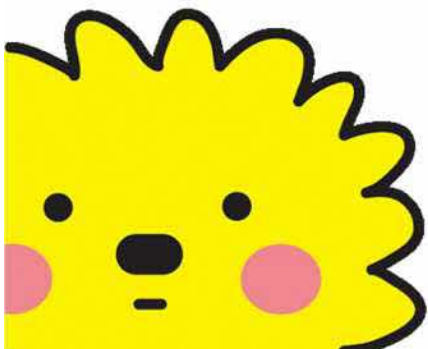
加圧式給水車(タンク容量:2,000L)



緊急遮断弁(橘配水池)



桑野川水管橋(φ500mm)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





阿南市新水道ビジョン 2022▶2028【概要版】

令和4年3月 発行

発行 阿南市水道部水道課

〒774-8501 徳島県阿南市富岡町トノ町12番地3

TEL: 0884-22-3295 FAX: 0884-23-6073

URL: <https://www.city.anan.tokushima.jp>